

今年もこの素晴らしい企画にお呼び頂いてありがとうございます。
混声合唱の部門を担当する加藤です。
去年の参加者たちからは、元気な声とニコニコの笑顔に沢山の贈り物をもらった気持ちでした。

今年は、年齢制限がなくなって大人の方も一緒に歌っていただけるのですね！
小学生の引率で来てくださった保護者の方も、何十年ぶりに歌ってみる...？と迷っている方も、栃木市内の方も、ちょっと遠い方も、色々な方と一緒に声を合わせられるのが今から待ち遠しいです。

今年もスペシャルゲストに信長貴富先生をお呼びしています。作曲家直々のレッスンを受けるのはもちろんスゴイことですし、ここだけの裏話なんてあるかも！？合唱好きなら「信長」は戦国時代の武将ではなく「超売れっ子作曲家」のことなんだ。常識だ！って、ボクの先輩が昔言っていました。
そんな信長先生のレッスンは、とっても楽しいです。わかりやすく、そしてちょっと恥ずかしそうに自分の曲を指導してくださる姿は、必見ですよ！

私の時間では、今年も信長先生の2つの曲を取り上げます。
まず、やなせたかしさんの詩を歌いたい、という想いがありました。え？朝ドラ「あんぱん」が流行っているからでしょうって？そうかも知れません。
私は、やなせたかしさんのどの詩を読んでも、あの戦争を想起させられます。今年、日本が戦争に負けて80年という年に、色々な世代の方と一緒に振り返りたいと思いました。

そして、信長先生に「生きる理由」を見ていただく案が出たとき、残りの1曲として迷いなく私の脳裏に浮かんだのは大江健三郎さんの詩による「新しい人」に、という作品でした。
ノーベル文学賞の受賞作家である大江健三郎さんのことを、若い人は知っているだろうか？ぜひこれをきっかけに調べてみてほしい。争いと和解をご自身の中心テーマにした作家です。そしてこの曲はもう21年も前の作曲ですが、若き信長先生の情熱と技術が惜しみなく注ぎ込まれた名作です。

選曲というのはいつもとても悩ましいものなのですが、今年はピースがピタリと収まるように決めました。

女声（童声）合唱の2曲から、「新しい人」に、ジグザグな屋根の下で、そして生きる理由まで。緩やかなテーマで繋がって（コネクトして）います。
単純な合唱練習ではなく、誰かの想いを発見し、参加者みんなで味わい合う。歌の上手、下手なんて大した問題ではありません。どんな方にもきっと素敵な時間になります。

緑豊かな文化の街、栃木市で、皆様にお会いできるのを心から楽しみにしています！

混声合唱部門担当講師 加藤 拓